

世界トップレベルのがんセンター「テキサス州立大学 MD アンダーソンがんセンター」と 抗がん剤の臨床開発を実施

平成 25 年 11 月 26 日

富士フイルム株式会社(社長:中嶋 成博)は、米国での抗がん剤の開発を行うため、がん領域で世界トップレベルの研究・治療施設であるテキサス州立大学 MD アンダーソンがんセンター(以下、MD アンダーソンがんセンター)^{※1}と、抗がん剤 3 薬剤(「FF-10501」「FF-10502」「FF-21101」)の臨床開発を実施することを決定しました。まずは、来春より、同センターにおいて「FF-10501」の第 I 相臨床試験をスタートし、順次、他薬剤の臨床試験も開始します。

富士フイルムは、「がん」を重点領域の 1 つとして捉え、写真フイルムで培った、高い化合物の合成・設計力や解析技術などを活かして抗がん剤の研究開発を積極的に進めています。現在、抗がん剤のパイプラインとしては、新規作用メカニズムを解明し、薬効を確認できるバイオマーカー候補を同定した「FF-10501」(適応症:血液がん)、優れた薬効が期待でき、高効率の合成プロセスを見出すことで生産適性を向上させた「FF-10502」(同:膵臓がんなど)、抗体に放射性同位元素を結合させて薬効を高めた「FF-21101」(同:肺がんなど)を保持しています。本年 5 月には、「FF-10501」の再発・難治性骨髄異形成症候群(MDS)^{※2}を対象とする第 I 相臨床試験を国内でスタートさせています。

今回、臨床試験を実施する MD アンダーソンがんセンターは、年間 1 万人以上の治験参加患者数があり、約 2 万人のスタッフを有する、世界トップレベルの総合がんセンターです。富士フイルムは、MD アンダーソンがんセンターの世界最大規模の治験参加患者群を活用し、第 I 相から第 II 相の臨床試験をスピーディーかつシームレスに行うことで、早期の薬効証明(Proof of Concept)^{※3}の獲得を目指します。

尚、今回の MD アンダーソンがんセンターでの臨床試験は、Boston Strategic Corporation(以下、BS 社)と協働して実施する予定です。BS 社は、前臨床・臨床開発を行う専門家のグローバルネットワークを有しており、富士フイルムは同社と連携することで、臨床試験に対応するための大規模な研究・開発組織を内部に固定化することなく、プロジェクト単位でチームをフレキシブルに構成し、効率良く研究開発を進める、次世代型のグローバル開発モデルの臨床開発を目指します。

富士フイルムは、化合物の合成力・設計力や解析技術、ナノテクノロジー、生産技術など、写真フイルムなどで培った技術・ノウハウと、富山化学工業や富士フイルム RI ファーマなどの医薬分野のグループ中核会社の技術を結集・融合させて、画期的な医薬品の研究・開発、生産プロセスの創出に取り組んでいます。今後、アンメットメディカルニーズが高い「がん」を重点領域と捉え、研究・開発を積極的に推進して事業展開を図るとともに、革新的な医薬品の提供を通じて世界の医療の発展に貢献していきます。

- ※1 テキサス州ヒューストン(米国)にあるがんの治療・研究・教育・予防を専門とする世界最大規模のがんセンター。1941年に設立され、がん撲滅をミッションとしている。3つの精神「思いやり」「誠実」「発見」の理念に基づき、がん治療の国際的リーダーとして、これまで多くの新しいがん治療を開発してきた。
- ※2 血液腫瘍の一種で、血球を作る造血幹細胞に異常が生じて十分な量の血球を作ることができなくなった結果、血球減少を起す疾患。また、一部、予後不良の患者で急性骨髄性白血病に進行する難治性疾患でもある。現在、MDS の患者数は日本で 1 万人以上、米国で 6 万人以上と推定されている。
- ※3 新薬の有効性が、(ヒトでの)臨床試験において実証されること(確定ではないが認められること)。

本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

【報道関係】	コーポレートコミュニケーション部	TEL 03-6271-2000
【その他のお問い合わせ】	医薬品事業部	TEL 03-6271-2171